

令和3年
8月27日発信

三田稲作情報

左記の QR コードを
読み込んでいただくと
HP でもご覧頂けます。
(スマートフォンのみ)



【発行・編集】

JA 兵庫六甲三田営農総合センター
お問い合わせ先 ; 079-563-4192

！注意！穂いもち！

発生状況について(8月25日現在)

病害:山間や河川沿いなどの常発地でコシヒカリやどんとこいなどのうるちに穂いもちの発生が見られます。

穂いもち病対策について(山田錦・ヒノヒカリ)

上位葉に発病している場合は穂いもちにつながる可能性が高いので防除しましょう。

出穂前のいもち病防除をしていないほ場はよく観察してください。市内で多く発生している地域は、山際の日照時間の短いほ場や川沿いの湿った条件となりやすいほ場なので特に注意してください。曇雨天が続く場合、薬剤散布は降雨の合間を見て実施すること。その際は、葉が乾いた状態で薬剤散布を行い、薬剤が乾くまで降雨がないよう、防除のタイミングに留意する。

薬剤名	希釈倍率	10aあたり 使用量	適用病害虫	散布時期	使用方法	本剤の使用回数
ブラシン フロアブル	1000倍	60~150L	いもち病、ごま葉枯病、穂枯れ、 ごま葉枯病菌、褐条病、変色米、 稲こうじ病、内穎褐変病、もみ枯 細菌病、墨黒穂病	収穫 7日 前まで	散布	2回以内
トライ フロアブル	1000倍	60~150L	稲こうじ病 いもち病	収穫 14日 前まで	散布	2回以内




写真1 上位葉に発生した葉いもち



写真2 穂いもちの症状(穂首いもち)

参照:兵庫県病虫害防除所「令和3年度病虫害発生予察注意報 第3号」

令和3年 7月30日発信	<h1>三田稲作情報</h1>	 <p>左記の QR コードを読み込んでいただくと HP でもご覧頂けます。 (スマートフォンのみ)</p>
<p>【発行・編集・監修】 JA 兵庫六甲三田営農総合センター・阪神農業改良普及センター お問い合わせ先 ; 079-563-4192</p>		

～ 水 稻 病 害 虫 発 生 予 察 情 報 ～

7月15日に、本年度第3回目の生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

<生育調査及び発生予察結果より>

うるち米の生育は、草丈はやや短く、茎数は一部多くなっています。コシヒカリやどんとこい、多収米とよめきはすでに幼穂形成期に入っており水が必要ですので、湛水を行ってください。出穂は平年並みの見込み。出穂期に入ると間断かん水をします。中干しが不十分だからといって、刈取り前の落水を早めると品質が低下しますので控えるようにしましょう。

山田錦の生育は、草丈はやや短く、茎数はやや少ないです。8月に入ると穂肥の時期になりますので、穂肥診断等活用していただき、適量散布を心掛けましょう。

品種	地区	田植日	令和3年		令和2年		品種	地区	田植日	令和3年		令和2年	
			草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)				草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)
コシヒカリ	本庄	5月22日	46.8	31.8	51.1	25.6	とよめき	本庄	5月29日	42.3	24.0	45.3	17.5
	高平	5月19日	47.0	27.5				三輪	6月13日	32.0	9.8	33.3	10.1
どんとこい	広野	5月25日	46.6	28.9	38.5	27.5	山田錦	加茂	6月5日	35.3	16.5	42.4	16.3
								本庄	6月7日	31.8	11.1	32.1	13.2

<出穂予測>

コシヒカリ…5月19日植え：8月 2日頃
どんとこい…5月25日植え：8月 7日頃 とよめき…5月29日植え：8月11日頃

病害：いもち病が調査地の広野、本庄、高平で病斑が確認されました。また激発型の病斑も本庄地区の川そばで多施肥の圃場の一部で見られました。激発型の病斑の場合は直ちに防除してください。

害虫：ウンカ類の発生は若干見られる程度で、現時点では被害を及ぼす程ではありません。
イナゴ類の発生がやや多く見られますが、収量に影響はありません。

<今後の管理について>

【いもち病】

定点調査では葉いもちの発生が激発しているところがありました。本年の7月は梅雨明けまでの日照不足や多雨により感染しやすくなってました。発病動向に注意してください。

●近辺で、葉いもちが多数発生している場合は、穂いもちへの移行を防ぐため下記の表を参考に防除しましょう。薬剤散布の判断がしにくい場合は、営農相談員までご連絡ください。

薬剤名	適用病害名	使用量	使用時期	使用回数	使用方法
ブラシン粉剤DL	いもち病 ごま葉枯病	3～4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布
	内穎褐変病 もみ枯れ細菌病	4kg/10a			
コラトップ粒剤5	いもち病	3～4kg/10a	穂いもちに対しては出穂30日前～5日前まで	2回以内	散布
	もみ枯細菌病	4kg/10a	出穂30日前～5日前まで		

※その他病害の登録内容についてはラベルをご確認ください。

【カメムシ対策】※今年も多発が予想されております。しっかりと本田防除をしましょう！

出穂の2週間前までに畦畔の草刈りをすませましょう。


※出穂間際の畦草刈りはカメムシを本田に追い込むこととなりますのでご注意ください。

また、水田内のヒエやホタルイはカメムシを誘引するので、除草を徹底することは大切です。

出穂5日頃の薬剤防除が有効です。

薬剤名	適用病害虫	10a当り使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スタークル粒剤	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ	3kg	収穫7日前まで	散布（ひたひた水から3cm程度の水深で散布）	3回以内
スタークル豆つぶ	カメムシ類 (ウンカ類、ツマグロヨコバイ)	250g (250g～500g)	収穫7日前まで	散布（たん水3～5cm程度の水深で散布）	3回以内

※その他病害の登録内容についてはラベルをご確認ください。

令和3年 7月15日発信	<h1>三田稲作情報</h1>	 <p>左記のQRコードを読み込んでいただくとHPでもご覧頂けます。 (スマートフォンのみ)</p>
<p>【発行・編集・監修】 JA兵庫六甲三田営農総合センター・阪神農業改良普及センター お問い合わせ先：079-563-4192</p>		

～ 水稲病害虫発生予察情報 ～

7月1日に、本年度第2回目の生育調査及び病害虫発生予察調査を実施しました。

＜生育調査結果と直近の管理＞

コシヒカリの生育は、草丈は平年より低く、茎数はやや多くなっています。すでに幼穂形成期に入っており水が必要ですので、間断灌水で管理を行ってください。

山田錦の生育についても、草丈はやや短く、茎数は平年より少ないです。。中干しの時期が近づいて。分けつが16～17本/株確保できれば、中干しを開始します。

品種	地区	田植日	令和3年		令和2年		品種	地区	田植日	令和3年		令和2年	
			草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)				草丈 (cm)	茎数 (本/株)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)
コシヒカリ	本庄	5月22日	46.8	31.8	51.1	25.6	とよめき	本庄	5月29日	42.25	23.95	45.3	17.5
	高平	5月19日	47.0	27.5			山田錦	三輪	6月13日	31.95	9.75	33.3	10.1
どんとこい	広野	5月25日	46.6	28.9	38.5	27.5	加茂	6月5日	35.275	16.45	42.4	16.25	
							本庄	6月7日	31.8	11.1	32.1	13.15	

(各地区1圃場調査・20株調査/1ほ場あたり)

＜病害虫発生状況＞

病害: いもち病の発生を市内数ヶ所で確認しております。その他目立った病害は見つかりませんでした。今年梅雨入りが早く、梅雨明けまでは低日照と降雨により本病の発生が助長され、やや多い発生になると予想されるので注意しましょう。

害虫: 夏ウンカ類の発生は若干見られる程度で、被害を及ぼす程ではありませんでした。しかし前線が停滞しているため、今後のウンカの飛来次第では防除が必要になるかもしれません。

【いもち病】

補植用取置苗は葉いもちの伝染源となるので早急に処分してください。また、いもち病対策に箱施用剤を使用している場合も田植え後40～50日経過し、病斑を確認した場合はすぐに防除する必要があります。

薬剤名	10a当たり使用量	適用病害虫	散布時期	使用方法	本剤の使用回数
コラトップ ジャンボP	小包装(パック) 10～13個 (500g～650g)	いもち病	葉いもちに対して初発20日前～初発時 穂いもちに対して出穂30日前～5日前まで	水田に小包装(パック)のまま投げ入れる。	2回以内

※登録内容についてはラベルをご確認ください。

【出穂前後の水管理】

根の活力を維持するため間断かん水を行ってください。

出穂前1週間～出穂後1週間は稲が特に水を必要とする期間は、たん水管理(田に水を溜めた状態を保つ)をしてください。

【カメムシ類】

出穂の2週間前までには畦畔などの草刈を終えるようにしてください。併せて水田内のヒエ・ホタルイの除草も行ってください。下記の薬剤は出穂してから5日前後の防除が有効です。

薬剤名	適用病害虫	10a当り使用量	使用時期	使用方法	本剤の使用回数
スタークル粒剤	カメムシ類、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ	3kg	収穫7日前まで	散布(ひたひた水から3cm程度の水深で散布)	3回以内
スタークル豆つぶ	カメムシ類 (ウンカ類、ツマグロヨコバイ)	250g (250g～500g)	収穫7日前まで	散布(たん水3～5cm程度の水深で散布)	3回以内

※登録内容についてはラベルをご確認ください。

～水田に発生するアオミドロ対策について～

現在、管内水田でアオミドロ等藻類の発生が多くみられます。下記のとおりアオミドロ対策をまとめましたので今後の参考にしてください。

【アオミドロとは】

全国に分布し、ごく普通に発生が見られる緑藻植物(藻類)。水温 20℃前後で良好に発生する。移植直後に多発生すると水温や地温の低下、苗のなぎ倒し、肥料養分の収奪などにより分けつを抑制することがあります。

対策(アオミドロの発生が多い場合)

- ・落水し、軽く田面を干す。(分けつ数が 16 本以下の圃場では、2～3 日おきに間断かん水とする。)



【表】 藻類(アオミドロ)に適用のある除草剤

薬剤名	10a 当たり使用量	適用病虫害	散布時期	使用方法	総使用回数
モゲトン粒剤	移植水稻 2～3kg 直播水稻 1.5～2kg	ウキクサ類・藻類 (アオミドロ、アミミドロ)	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期(但し、収穫 45 日前まで)	湛水散布	3 回以内
モゲトンジャンボ	20 個 (1 kg)	ウキクサ類 アオミドロ・藻類による表層はく離	ウキクサ類、アオミドロ・藻類による表層はく離の発生時(但し、収穫 45 日前まで)	水田に投げ入れる。 (移植水稻に限る)	

※農薬の使用前に必ず容器のラベルを確かめ、使用方法を守りましょう。

※モゲトン(特にジャンボ剤)は、藻が繁茂した状態で使用すると、薬剤が十分に拡散しない可能性があるため、粒剤をおすすめします。

※藻の繁茂がひどい場所は、落水することが一番の対策となります。落水を急ぐと水流により藻が移動し、稲株を倒すので、少しずつ落水します。

～トビイロウンカ情報について～

今年は昨年より約1ヶ月早い5月中旬に、静岡・大阪・奈良・徳島・福岡・佐賀等でトビイロウンカの飛来が確認されています。コシヒカリ・キヌヒカリなど早生品種でも対策を講じなければ収穫期に甚大な被害を受ける可能性があります。周りの水田への被害も併せて防ぐためにも、JA から発信する稲作情報や下記の図を参考に適期防除を心掛けてください。



【図】例年のトビイロウンカの飛来から増加の流れ及び防除適期

